

# 下田海中水族館のウミガメ産卵調査

ウミガメは絶滅危惧種で、守っていくためには全てのことを調べなければなりません。下田海中水族館では1991年から下田市の砂浜に産卵するアカウミガメの調査を行っています。

## アカウミガメの産卵

### 下田市での産卵シーズンは5月～9月



夕方～明け方にかけての暗い時間に砂浜へと上陸します。産卵する場所を決めると、ボディピットと呼ばれる体を固定する穴を掘ります。上陸しても産卵するとは限りません。音や光に驚いたときや、産卵に適した場所が見つけれなかったときなどは、産卵せずに海へと戻ってしまいます。

### 一度に100個前後産み落とす



60cmほどの穴を後脚で掘り、ピンポン玉と同じくらいの卵を産みます。産卵直後の卵は、産み落とされた衝撃で割れないように、へこんでいてやわらかいです。その後は、穴に砂をかぶせて戻し、海へと帰っていきます。1シーズンで2～5回産卵すると言われています。

### 孵化までに約60日



孵化すると砂中で動くため天井の砂が崩れ、崩れた砂の上に乗る、ということを繰り返して砂表を目指します。砂表から出てくるのは、夕方～明け方で、大海原へと旅立ちます。

### 生まれた砂浜に産卵しに帰ってくる

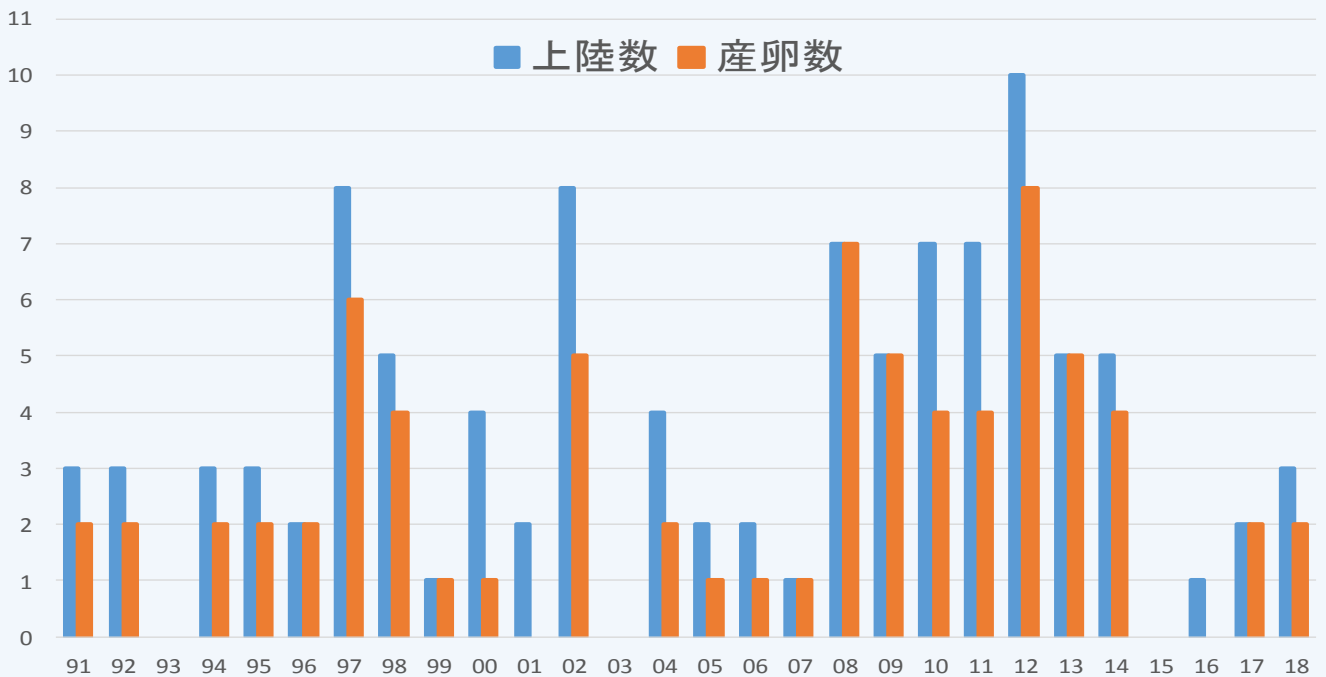


海へと旅立った稚ガメは、海流に乗ってアメリカへと渡り、餌の豊富な場所で成長します。自然界では約30年で成熟し、産卵しに、自分が生まれた砂浜へと帰ってくるのです。

静岡県では、「静岡県希少野生動植物保護条例」に基づき、希少野生動植物のうち特に保護が必要な種を『指定希少野生動植物』に指定しています。

平成26年4月1日から、新たに「アカウミガメ」（爬虫類）が追加指定されました。これによりアカウミガメの個体及び卵を捕獲、採取、殺傷又は損傷することは禁止され、違反した場合には罰則が科せられます。

## 過去の調査結果



※上陸しても産卵するとは限らないため、上陸数と産卵数を分けています。

## 教育普及

2016年から地元小学校でウミガメ講義を行い、産卵調査を授業の一環として一緒に活動しています。産卵に来ることを知り、積極的に保護者の方も含め、夜の観察に参加してくれました。

今後もウミガメを守ってだけでなく、産卵する砂浜や海について学んでもらい、地元の方と協力していきます。



## 保護柵

産卵調査後は産卵場所に柵を設置し、場所をわかりやすくし、保護します。孵化間近には夜に張り込んで脱出の瞬間を見守ります。

ウミガメが選んで産卵した場所が適切だと考え、基本的には別の場所への卵の移植は行わずに見守っています。

柵を見かけて興味を持った方は水族館へご連絡ください。

